

# 「遺伝性単核症ヘルペス手記」 匿名希望 35歳

2014年7月23日

平成24年8月に長男を出産し、翌年4月より職場復帰。育児と家事、仕事にと毎日毎日忙しく過ぎていく日々。疲労と寝不足からか毎月のように熱を出すようになりました。平成26年4月初め、職場で悪寒に襲われて熱を測ると38度。仕事を早めに切り上げて、今日は何もしないで早く寝よう…。次の日、朝起きると体の気怠さは残っているものの、熱は下がっていたので、そのまま仕事へ出勤。昼休み後、また悪寒がしたが、昨日の今日でまだ治りきっていないのだろうと、とりあえず栄養ドリンクでも飲んで乗り切ろうと気合いを入れました。今日も何もしないで早く寝たいが、昨日もそうだったので、家事が溜まっている…。子供の離乳食の準備だけして、明日は母に助けてもらおうと連絡をいれる。寝る前に熱を測ると39度！いつもの熱にしてはなんだか様子がおかしいなと思いながら風邪だろうと常備薬を飲んで寝た。朝起きると熱は下がる→出勤→昼過ぎから熱、こんな状態で約1週間。体はへろへろ、本気でなんだかやばい感じ。4月9日、自宅近くの内科へ。午後からの発熱の原因として、1. 細菌感染 2. 膠原病熱 3. 悪性腫瘍の可能性があるとされるが、おそらく疲労からの風邪だろうとかぜ薬とロキソニンを処方される。薬が効かなかったら血液検査をしましょうか?と言われたが、病院にもろくに通う時間もないので今日採血してもらうように依頼。帰宅。2日間、処方された薬を飲むが症状に変化なし。同時に足の甲に蕁麻疹のような発疹。血液検査の結果が4月16日に出るので、それまで薬はやめようとひたすら夜は早く寝る。4月16日(水)結果を聞きに病院へ。結局、原因不明。もっと大きな病院を紹介するので、そこでエコーを撮るように勧められるが、そんなことしてもこの熱は治らん！と自分自身で思った。その時松本先生の顔が浮かんだ。4月18日(金)血液検査の結果をFAXし、先生にTEL。まずロキソニンを飲んだことをこっぴどく叱られる。何とかしてほしいと電話で訴えるも、ずいぶん御無沙汰やから、来院するように厳しく言われる。

松本医院とのはじめての出会いが小学校の時。母が通っていたことに始まります。ことあるごとに先生に漢方を処方してもらっていました。今度も先生なら…と翌日久しぶりに松本医院へ。「膠原病の疑いあり」と血液検査。あまりの疲労困憊具合に仕事の休業を勧められ、翌週より休業、子供と実家へ居候。免疫を上げるため、鍼灸をし、ひたすら真面目に漢方を飲む。漢方を飲み始めて1週間。すっかり体も元気になり、気づけば熱も出なくなっていました。1週間後、再度血液検査。その結果「EBウイルス性伝染性単核症」と診断される。はっきりした病名が出たこと、体もようやく熱から解放されてほっと一息。さすが、松本先生やわと改めて感謝です。ありがとうございました。